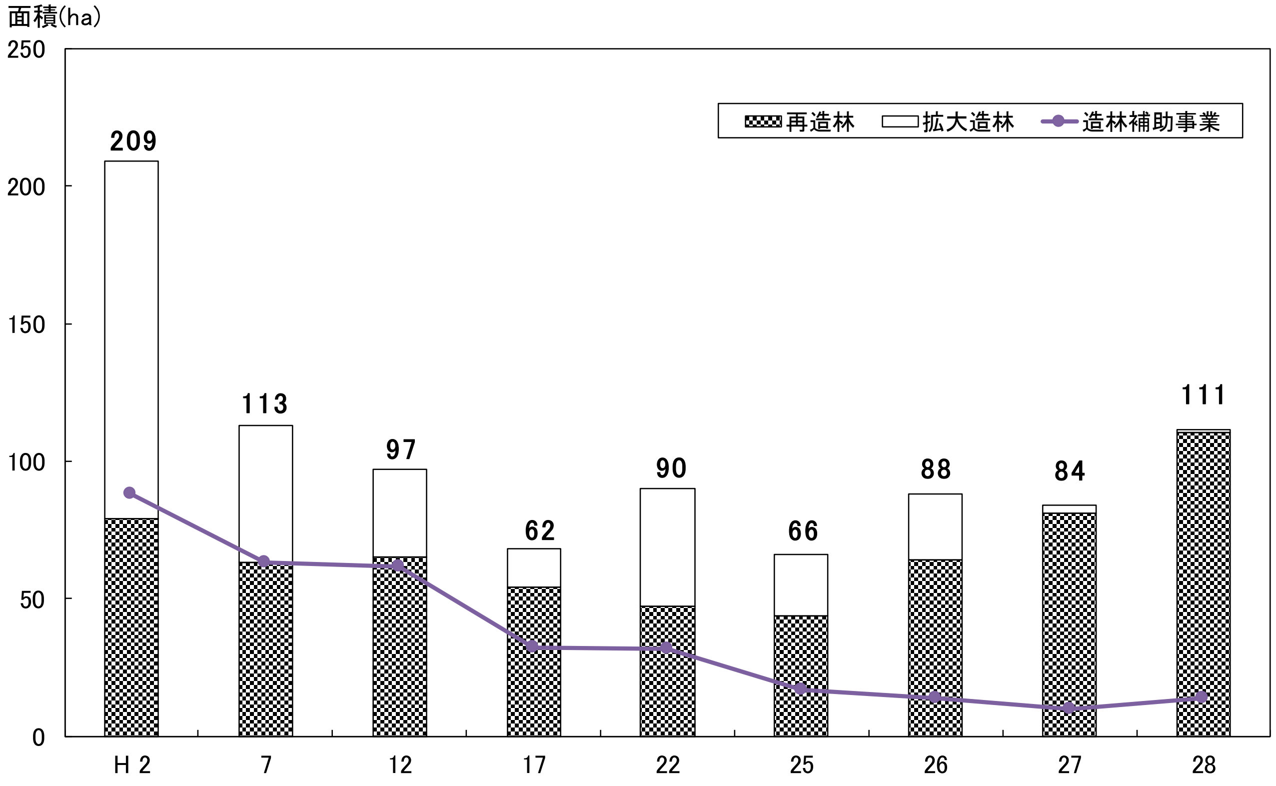
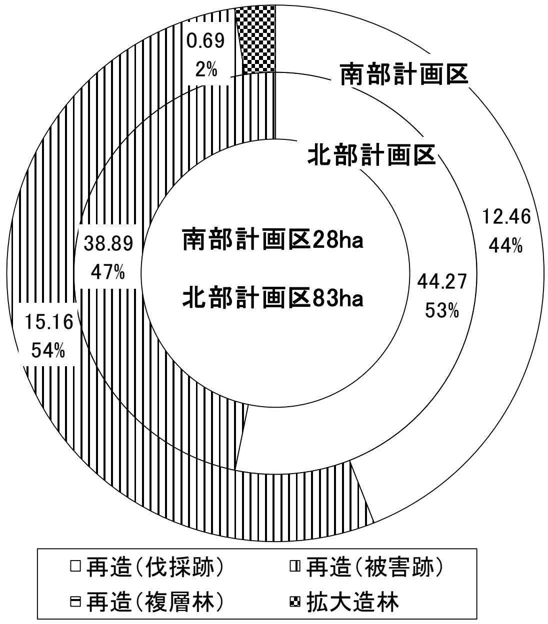
２．森林の整備

(1) 人工造林

―造林面積は低調―



造林種別人工造林面積地域別人工造林面積（ha）



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、90ha台まで増加し、25年度まで再び減少したが、26年度から増加し、28年度は約111haとなった。

しかしながら、その内、補助造林面積は約22haであり、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は約20％となっている。

造林種別の内訳は、被害林跡地等への再造林が前年度より30ha増加し約110haとなっており、拡大造林は減少し　約1haとなっている。

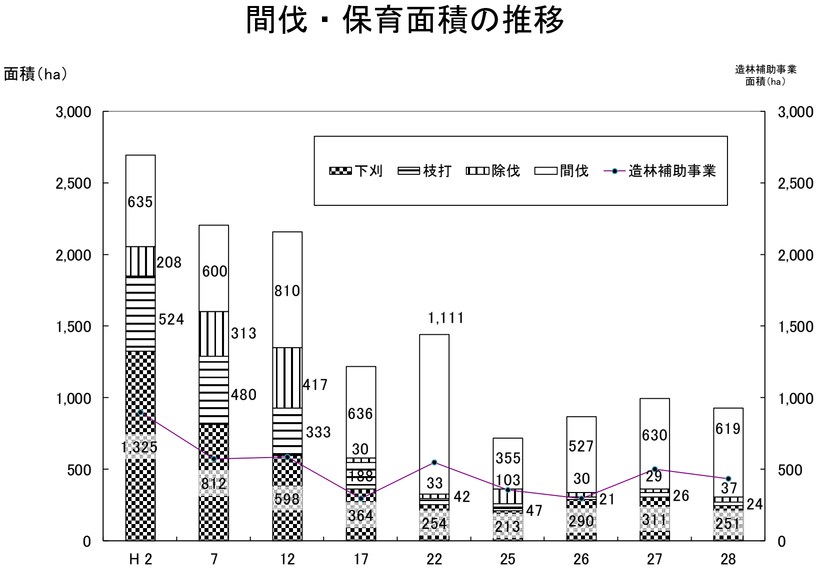
28年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より39ha増の約83haとなっており、すべて再造林となっている。

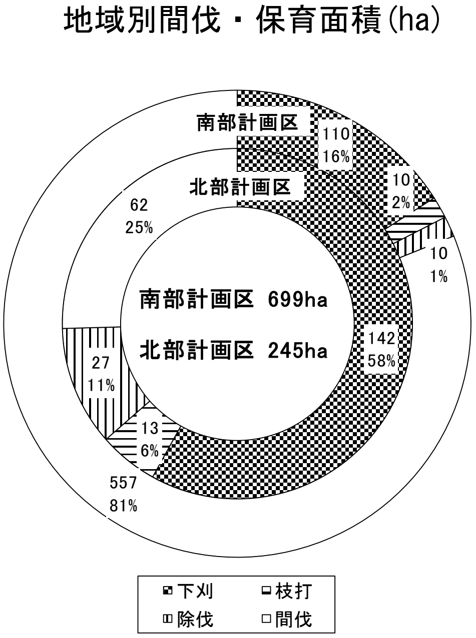
一方、南部計画区は前年度より12ha減の約28haであり、北部計画区と同様に再造林がほとんどを占めている。

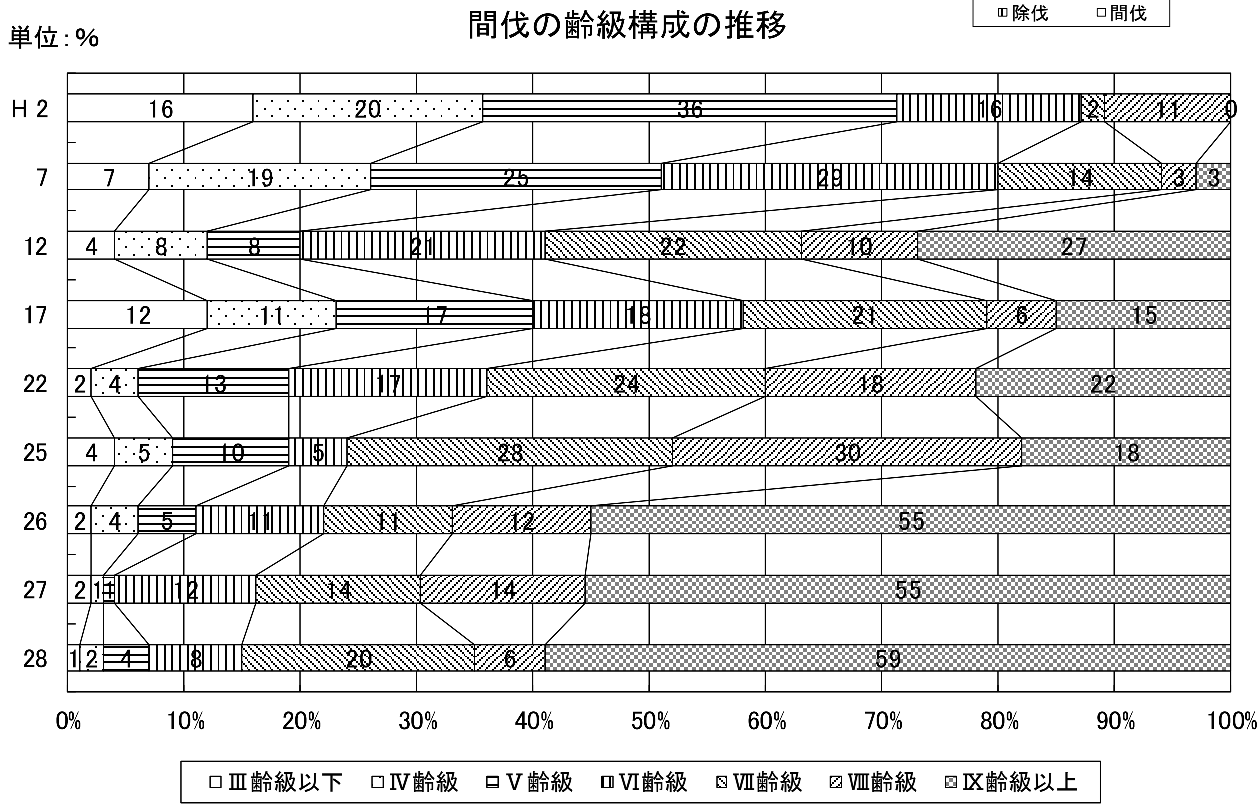
造林樹種別の面積構成は、スギが23％（26ha）、ヒノキ16％（18ha）、マツ32％（36ha）、広葉樹29％（32ha）となっており、前年度に比べスギの割合が約1％、ヒノキの割合が約1%、マツが約4%減少するのに対し、広葉樹は約5%増加している。

(2) 間伐・保育

―間伐・保育実施面積は上昇傾向―







本県の間伐及び保育の実施面積は、17年度まで大幅に減少した後、21年度に1,473haまで回復したが、再び25年度に減少した。しかしながら、26・27年度と微増ながら増加傾向を示している。

28年度については、前年度から65ha減少し931haとなった。種類別には、除間伐が前年度から2ha減少し656ha、下刈は60ha減少し251haとなり、間伐及び保育全体で減少した状況となった。

地域別傾向としては、北部計画区では前年度から166ha減少し245haとなり、南部計画区でも前年度から114ha増加し699haとなっている。種類別内訳については、北部計画区が間伐約25%・下刈約58%に対して、南部計画区では間伐81%・下刈16%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、28年度は前年度と同様にⅨ齢級以上の割合が大幅に増加し約59%となり、Ⅷ齢級以上で見ると間伐全体の約65%を占めるなど高齢級化が進行している。